

2018年度第2四半期 決算説明

－ 2018年1月～6月 －

2018年8月10日

株式会社 CAC Holdings

I．2018年度 上期決算概況

II．当社グループの取組み

I . 2018年度 上期決算概況

連結業績概要（前期比）

単位：百万円

	17年2Q	18年2Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	28,177	25,440	▲2,737	▲ 9.7%
売上総利益	5,462	5,077	▲385	▲ 7.0%
(対売上比)	19.4%	20.0%	0.6pt	
販管費	5,056	4,542	▲513	▲ 10.2%
営業利益	406	534	+128	+31.6%
(対売上比)	1.4%	2.1%	0.7pt	
経常利益	321	477	+155	+48.4%
(対売上比)	1.1%	1.9%	0.7pt	
特別利益	1,161	360	▲800	▲ 68.9%
特別損失	153	161	+7	+4.8%
当期純利益	550	283	▲266	▲ 48.4%
(対売上比)	2.0%	1.1%	▲0.8pt	

- ・ 海外子会社売却の影響、国内主要顧客向けの減収等により、売上高は約10%減少
- ・ CRO事業の利益回復等により、営業利益、経常利益が増加
- ・ 投資有価証券売却益が減少したことにより、当期純利益は減少

© 2018 CAC Holdings Corporation

【売上高】

- ・ 前年同期比9.7%の減少の254億円。27億円減少の理由は、以下2点
 - 1) 昨年実施した海外子会社2社売却の影響：約12億円
売却企業別：Accel Frontlineのシンガポール子会社 9億円強
シンガポール子会社のSierra Solutions 2億円強
 - 2) 国内IT事業子会社の大幅減
 - ・ 昨年計上のCACナレッジ主要顧客向け大型案件（ハードウェア含む）の反動減 7.5億円
 - ・ シーエーシー金融向け売上の減少：4.6億円

【売上総利益】

- ・ 7%減。売上の減収に伴い、0.4億円減少

【販管費】 約5億円削減

- ・ 海外子会社売却による販管費減：3.5億円
- ・ CAC Holdingsやシーエーシーでのコスト削減：約1.3億円

【営業利益】

- ・ 販管費の削減により営業利益が増加
- ・ 前年同期比較では、CRO事業（CACクロア）が営業利益改善に貢献 +4.3億円
- ・ 国内IT事業は、減益となっている ➡セグメント別売上高、営業利益で説明

【経常利益】

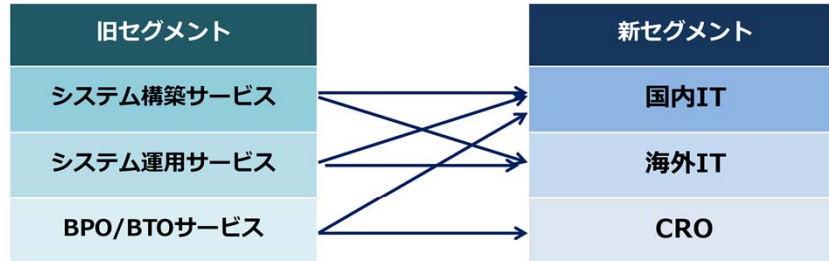
- ・ 48.4%増。営業利益と同様の理由。営業外損失において、フィナンシャルコストも下がった

【当期利益】

- ・ 8億円の減少。投資有価証券売却益の減少が主要因で、前年同期のほぼ半分となった

報告セグメント変更

2018年度より、中期経営戦略の開始に伴い、報告セグメントを変更



新セグメント概要

国内IT	国内子会社におけるIT関連サービス、人事BPOサービスなど
海外IT	海外子会社におけるIT関連サービスなど
CRO	製薬企業の治験業務や医薬品販売後業務の受託・代行サービス

© 2018 CAC Holdings Corporation

- ・ 2018年1Qから報告セグメントを変更
- ・ 昨年まではシステム構築サービス（ SI ）、システム運用サービス（ SO ）、システム以外として BPO/BTOサービス（人事BPOサービス、医薬品開発支援サービス（CRO））と区分していた
- ・ 今期から中期経営戦略に基づき、重点の置き方を変えた結果、国内IT、海外IT、CROと分類することとした
- ・ 現時点でCROは、ほぼ国内展開が主だが、今後、海外CROの事業が拡大した場合、CROセグメントを国内CROと海外CROで分類して開示する可能性もある

(新) セグメント別売上高・営業利益（連結）

売上高

単位：百万円

	2017年2Q		2018年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
国内IT	15,387	54.6%	14,362	56.5%	▲1,025	▲ 6.7%
海外IT	7,328	26.0%	5,412	21.3%	▲1,915	▲ 26.1%
CRO	5,461	19.4%	5,665	22.2%	+203	+3.7%
合計	28,177	100.0%	25,440	100.0%	▲2,737	▲ 9.7%

営業利益

	2017年2Q		2018年2Q		前年同期比	
	金額	利益率	金額	利益率	金額	増減率
国内IT	542	3.5%	282	2.0%	▲260	▲ 48.0%
海外IT	▲146	-	▲186	-	▲40	-
CRO	10	0.2%	439	7.8%	+428	+4,184.9%
合計	406	1.4%	534	2.1%	+128	+31.6%

※ 売上高は、外部顧客への売上高を表示

© 2018 CAC Holdings Corporation

新セグメントで開示、昨年数値（2017年1月～6月）も新セグメントで算出

【売上高】 全体で27億円減収

（国内IT）10億円の減収

- ・ CACナレッジの主要顧客向け売上減収に伴い、7.5億円の減収
- ・ シーエーシーのメガバンク向け※で、5億円の減収

（海外IT）19億円の減収

- ・ 昨年実施した海外子会社2社の売却で、約12億円の減収
- ・ アメリカ子会社のメガバンク向け※の減収影響により、約3億円の減収

（CRO）微増

※メガバンク向け：いわゆる「次期システム」ではなく、海外支店に関する案件

【営業利益】

（国内IT）大幅減益

- ・ シーエーシーで約3億円の減益（主にメガバンク向けの減収が影響）

（海外IT）赤字幅拡大

- ・ 売却した2社の営業利益は1社赤字、1社黒字で±0、残りの会社で減益
- ・ 4～6月（3か月間）では、回復傾向にある。
インド子会社、中国子会社ともに黒字化している
- ・ 前期比減は、アメリカ子会社の減収による減益（約0.8億円減）が大きな要因

（CRO）大幅な利益改善

- ・ コスト削減、不採算案件の解消、契約の見直しなどによるもの
- ・ 契約の見直しは、治験データの処理数ベースでの契約形態から、最低保証つまり、治験データの処理数に関わらず、一定の売上を保証してもらう契約形態に変更

顧客業種別売上高（連結）

単位：百万円

	2017年2Q		2018年2Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
金融	4,120	14.6%	3,440	13.5%	▲680	▲ 16.5%
信託	2,074	7.4%	2,013	7.9%	▲61	▲ 3.0%
医薬	7,909	28.1%	8,148	32.0%	+238	+3.0%
食品	1,709	6.1%	1,356	5.3%	▲352	▲ 20.6%
製造	1,574	5.6%	1,749	6.9%	+175	+11.1%
サービス他	10,788	38.2%	8,731	34.4%	▲2,056	▲ 19.1%
合計	28,177	100.0%	25,440	100.0%	▲2,737	▲ 9.7%

※ 外部顧客への売上高を表示

© 2018 CAC Holdings Corporation

（金融）大幅減

- ・ 国内およびアメリカでのメガバンク向け減収が大きく影響
- ・ Accel Frontline（インド子会社）でも金融向け売上高が15億円ほどあるため、その増減により多少の影響がある（今期は前期比で微減）

（サービス他）20億円以上の大幅減

- ・ 昨年売却した海外子会社2社（▲10億円）、およびCACナレッジの大幅減収（▲7.5億円）が主要因

(新) セグメント別受注高・受注残高状況 (連結)

受注高

単位：百万円

	2017年2Q	2018年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	15,724	14,747	▲977	▲ 6.2%
海外IT	6,846	5,503	▲1,342	▲ 19.6%
CRO	5,834	5,614	▲220	▲ 3.8%
合 計	28,405	25,865	▲2,540	▲ 8.9%

受注残高

	2017年2Q	2018年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
国内IT	7,379	7,127	▲252	▲ 3.4%
海外IT	1,773	1,330	▲442	▲ 25.0%
CRO	7,982	7,643	▲338	▲ 4.2%
合 計	17,135	16,101	▲1,033	▲ 6.0%

※ 外部顧客への受注高、受注残高を表示

© 2018 CAC Holdings Corporation

【受注高】 伸び悩んでおり、下期については強気に言えない

- ・ 減少要因は、売上とほぼ同じ要因

(国内IT)

- ・ 売上同様、国内ITは、メガバンク向けの大幅減が主な要因

(海外IT)

- ・ 海外ITは、子会社売却の影響が大きい
- ・ 売却子会社2社を除いた状態での昨年対比では、ほぼ同程度

(CRO)

- ・ 大きな伸びはなし

【受注残高】

- ・ 受注高の減少に伴い、受注残高も減少
- ・ CROは大きな伸びには至っていないが、足が長い（長期間の契約）案件もあり、将来的な方向性に大きな影響がある状態ではない

業種別受注高（連結）

単位：百万円

	2017年2Q	2018年2Q	前年同期比	
			金額	増減率
金融	4,127	3,746	▲380	▲ 9.2%
信託	1,934	2,016	+82	+4.2%
医薬	8,570	8,038	▲532	▲ 6.2%
食品	1,825	1,578	▲247	▲ 13.5%
製造	1,488	1,744	+256	+17.2%
サービス他	10,458	8,740	▲1,718	▲ 16.4%
合 計	28,405	25,865	▲2,540	▲ 8.9%

※ 外部顧客への受注高を表示

© 2018 CAC Holdings Corporation

（サービス他について）

大幅な受注高の減少は、海外子会社2社の売却影響および
子会社CACナレッジの大型案件の反動減によるもの

2018年度 業績予想（連結）

単位：百万円

	2018年度 2Q実績	2018年度 通期予想	2017年度 通期実績
売上高	25,440	54,000	53,268
営業利益 (対売上比)	534 2.1%	1,600 3.0%	698 1.3%
経常利益 (対売上比)	477 1.9%	1,500 2.8%	717 1.3%
当期純利益 (対売上比)	283 1.1%	1,100 2.0%	1,100 2.1%
2018年度 配当	中間配当19円を実施		期末配当19円を予定

© 2018 CAC Holdings Corporation

【営業利益】

- ・ 2018年度営業利益の予想値16億円に対して、上期で5.3億円。差額10億円以上となっている

【下期の見通し】

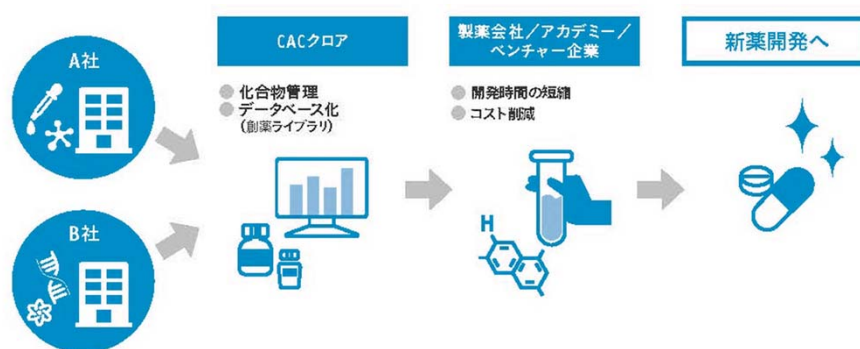
- ・ 下期の通常の事業による営業利益は、5億円程度を見込んでいる
- ・ 上記に加え、4Qに5億円強の信託銀行向けの受注を見込んで動いている
- ・ 当初、新規事業M&Aによる貢献を1億円程度見込んでいたが、当年度内に連結決算に反映できるような大きなものはない。活動は継続している

Ⅱ．当社グループの取組み

既存事業強化：CRO 周辺事業の拡大

■ 化合物共有ライブラリー事業開始

- ・ 製薬会社が個別に保有管理している医薬品探索研究用化合物や情報を、当社が集約管理、データベース化する事業
- ・ データベースを製薬会社やアカデミア、バイオベンチャーなどが共同利用
- ・ 新薬開発への大幅な期間短縮およびコスト削減、新薬開発などへ期待



© 2018 CAC Holdings Corporation

- ・ 本事業は、製薬会社が個別に管理・保管している化合物（液体、粉末など）を当社グループのCACクロアが集約管理するもの
- ・ 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）のバックアップ（借入）・認可を受けて神奈川県にある研究開発施設で事業開始に向けて準備中
- ・ 2018年度の売上はなし。来年の売上は3億円程度、以降5億円程度の売上を見込む
- ・ 大手3社からの受注予定があり、来年スタートする予定
- ・ 将来的には大学などアカデミックなものも含め、集約管理していきたい

既存事業強化：デジタルテクノロジーの活用

■ 感情AIを用いたビジネスの展開

本年2月発表の「心sensor」に続き、
「Automotive AI」サービス提供を開始



- ・リアルタイムで自動車乗員の感情を分析する車内センシングAI
- ・次世代のドライバーモニタリングシステムの開発や、快適な自動運転車両の開発などへの活用が期待

© 2018 CAC Holdings Corporation

- ・感情認識AIをリードする米国Affectiva社の技術を使用
- ・2月にソフトウェア「心sensor」のサービスの提供を開始
- ・Affectiva社は、自動運転向けのSDKなども作っているので、自動車業界（自動車メーカー、部品メーカー）へ営業を行っている
- ・感情認識AIに関して今年の売上は0.5億円程度だが、粗利率が40%以上と高く、今後伸ばしていきたい

既存事業強化：デジタルテクノロジーの活用（事例）

- テレビ東京の報道番組「夕方サテライト」にて、米朝首脳会談の分析に「心sensor」が活用
- 番組では、「心sensor」で分析された結果に基づきキャスターらが両首脳の心の内を推理



© 2018 CAC Holdings Corporation

感情認識AIの活用された例

（写真説明）それぞれの首脳が言葉を発する瞬間の感情を分析

- ・ 金氏はトランプ氏が発言した際、97%の嫌悪感（不安感）を表した
- ・ トランプ氏は非核化への自身の発言の際、40%の恐怖が検出された。

これらの分析結果をもとに、番組内でキャスターが話をつないでいった

新規事業領域の創出・拡大

■ インバウンドビジネス拡大に向け中国VCと協業

- ・ 中国のベンチャーキャピタルである同程衆創とインバウンド事業に係る協業の基本合意を締結
- ・ 同程衆創の持つネットワークから有望なスタートアップ企業を発掘し、出資・提携を予定



© 2018 CAC Holdings Corporation

- ・ 取り組みは、やや遅れ気味
- ・ オリンピックを見越して、特に中華圏のインバウンドビジネスをターゲットとしている
- ・ 現地（中国）のベンチャー企業と協力

グループ強化・活性化

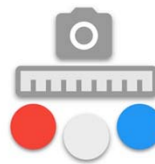


■ ボッチャ佐藤選手を採用

- ・ 佐藤選手の支援および、ボッチャの支援・普及活動を推進
- ・ グループの一体感の醸成

■ ボッチャ関連アプリ配信

ボッチャボール間の距離を自動測定する
Androidアプリ「ボッチャメジャー」を
Google Playで配信開始



© 2018 CAC Holdings Corporation

- ・ 当社グループのCSR取組みであるボッチャで、強化指定選手の佐藤選手を新入社員として迎えた（2017年の日本選手権BC2クラスで4位）
- ・ 当社が開発したボッチャメジャーをGoogle Playで無償リリース、画像認識技術を活用。まだ公式試合では使用されていないが、将来的に活用されることを目指している

参考：上期主要ニュース(1/3)

2018/1/11	国内企業向けCVCファンド組成 ～新規事業創出の一環として、総額30億円のCVCファンドを組成～ CAC Holdingsは、新規事業創出を目的に、国内スタートアップ企業への投資を目的とした運用会社「CAC CAPITAL株式会社」を設立し、当社出資のもと、総額30億円のCVCファンド(コーポレート・ベンチャーキャピタルファンド)を組成。これにより、新規事業創出に向けたより機動的な投資と、スタートアップ企業との早期パートナーシップ構築を目指す。
2018/2/1	CAC 感情認識AIを用いた動画分析サービス「心sensor」の提供を開始 ～手元に動画だけ用意すれば手軽に感情分析が可能に～ シーエーシーは、感情認識AIを用いて人の表情を解析し、読み取った感情を数値データ化する動画分析サービス、「心sensor(Ver.1.0)」の提供を開始した。「心sensor」は、感情認識プラットフォームにAffectiva, Inc. が提供するEmotion Artificial Intelligenceを活用し、CACが独自開発したサービス。各種リサーチや商品開発、顧客満足度調査等に手持ちの動画データを課題解決のための新しいソリューションとして活用することが可能。
2018/3/19	CACクロア 化合物共有ライブラリー事業（クオリティリード）を開始 CACクロアが進める化合物共有ライブラリー事業が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の医療研究開発革新基盤創成事業に採択され、当事業を開始。当事業を通して、国内の創業体制を強化し、日本発の革新的な医薬品の提供に貢献する。

参考：上期主要ニュース(2/3)

2018/3/23	CAC Holdings、インバウンドビジネスに進出 ～第1弾として、訪日外国人向けの飲食店予約・決済サービスを提供するtourcandyへ出資～ 訪日外国人観光客向けの飲食店予約・決済サービス「尋味（シュンウェイ）」を運営するtourcandy株式会社に出資。本件は、今年度スタートした中期経営戦略「Determination 21」における主要施策の一つであるインバウンドビジネス捕捉への取組み。今後、資本提携に留まらず、CAC上海によるシステム開発やユーザーの取り込み、提携飲食店の開拓などのサポートを提供し、tourcandyのビジネス展開に対する支援を進める。
2018/4/2	CACグループにトップアスリート ボッチャの佐藤駿選手が入社 CACグループは、障害者スポーツ「ボッチャ」の佐藤駿選手を採用。2016年より取り組んでいるボッチャの普及・支援活動のひとつ。佐藤選手の競技活動の支援を通じ、ボッチャの普及・支援を一層推し進めると同時に、佐藤選手の応援を通してグループ体感の向上を狙う。
2018/4/9	CAC Holdings、インバウンドビジネス拡大に向け中国VCと協業 中国のベンチャーキャピタルである蘇州同程衆創企業管理服務有限公司（同程衆創(トンチョンヂョンチュウアン)）とインバウンド事業に係る協業の基本合意を締結。この協業により、同程衆創の持つネットワークから有望なインバウンド関連のスタートアップ企業を発掘し、出資・提携をすることで、CACグループのインバウンドビジネスを促進・拡大する。

参考：上期主要ニュース(3/3)

2018/6/13	CAC AWSのサービス群を活用した医薬品情報提供ソリューションの提供を開始 シーエーシーは、アマゾン ウェブ サービス（以下、AWS）のサービス群を活用し、製薬企業が提供する様々な医薬品情報を一括検索できる医薬品情報提供ソリューションの提供を開始。
2018/7/30	CACクロア RPA（Robotic Process Automation）を受託業務へ導入開始 CACクロアは、内資系大手新薬メーカーの医薬品安全性情報管理業務（以下「PV業務」）に Robotic Process Automation（以下「RPA」）を導入、作業時間の大幅な削減が認められた。今回RPAを適用させたのはPV業務のICSR（個別症例安全性報告）プロセスにおけるごく一部であり、すでにセーフティーデータベースへの自動入力やファイル管理対応、その他さまざまなプロセスへの応用も推進する。
2018/8/1	CAC、感情認識AIを用いた「Automotive AI」の提供を開始 ～自動車乗員のリアルタイム感情を映像と音声を収集し分析に～ シーエーシーは、リアルタイムで自動車の乗員の感情分析が可能な車内センシングAI「Automotive AI」を提供開始。「Automotive AI」の活用により運転者や同乗者にとって、より安全で快適な環境を構築することを可能にする。また、次世代のドライバーモニタリングシステムの開発や、快適な自動運転車両の開発、同乗者の反応に応じた全く新しい乗車体験の提供などへの活用も期待される。



株式会社 **CAC Holdings**



CACグループは、障害者スポーツ「ボッチャ」の普及・発展をお手伝いしています

経営企画部 Enterprise Value Upグループ

TEL : 03-6667-8010 E-mail : prir@cac.co.jp

<https://www.cac-holdings.com/>

© 2018 CAC Holdings Corporation